

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 645 2021年 7月号
 1部60円
友の会会員は会費に含まれています
 発行 東京勤労者医療会代々木病院
 院長 河邊 博正
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
 TEL 03(3404)7661
 http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

夏場に多い皮膚の病気 「蜂窩織炎」

「蜂窩織炎」の原因と予防は？

夏場に多くなる皮膚疾患「蜂窩織炎」

こんにちは。皮膚科の赤芝です。3月号では冬場に多い皮膚疾患である「皮脂欠乏性湿疹」を扱いましたが、今回は夏場に多い「蜂窩織炎（ほうかしきえん）」という皮膚疾患をご紹介します。

日本の夏は皆様も存じの通り、非常に暑くじめじめしているのが特徴です。日本の冬は乾燥しやすい気候なので、乾燥に伴う皮膚疾患が多くなるのですが、夏は汗がからみ・皮膚の蒸れが関係した皮膚疾患が多くなりま

す。高齢の方々は「自分分は汗をたいしてかかないから、今回の皮膚疾患は関係ないな」と思われるかもしれませんが、年齢の方々の発症が多く、一度かかると重症化して入院加療も非常に多い皮膚疾患なのです（図1参照）。

「蜂窩織炎」の症状は皮膚が赤くなる、腫れる、痛む、熱が出るなどです。中でも痛む皮膚疾患は皮膚科ではそれほど多くなく、「蜂窩織炎」



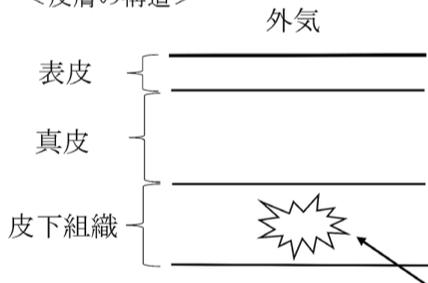
赤芝知「医師



「図1」 典型的な「蜂窩織炎」の写真
糖尿病高血糖も伴っていた

「図2」

<皮膚の構造>



「蜂窩織炎」の発生場所

る方や、むくみが強い方、糖尿病を持っている患者さんが多いです。「蜂窩織炎」の発生する部位のほとんどが膝下の「足」です。日本の夏は高温多湿であり、細菌などの生き物は夏に活発になりやすくなります。この時期に皮膚細菌感染症が多くなります。特に高齢の方々は水虫を放置しているケースが多いため、「蜂窩織炎」の発生は夏に多いのです。

「蜂窩織炎」の予防は？

「蜂窩織炎」を予防するにはどうしたらいいのでしょうか？実は簡単です。足に水虫ができないようにし、むくまないようにすればいいのです。糖尿病がある患者さんは、とにかく足に傷を作らないようにしてください。水虫の菌は48時間、皮膚に入り込まないこと

「蜂窩織炎」の治療

「蜂窩織炎」は抗生物質の内服や点滴が必要になります。外用薬で治すことができません。「蜂窩織炎」は「皮下組織」という皮膚の深いところに発生するため、外用薬が届かないのです。コロナ禍で病院受診を控えている

千駄の萱

1964年、日本中が熱狂した。神宮の杜は沸き返り、多くの日本人が「自信を取り戻した」と言われる巨大イベントであった。言わずと知れた東京オリンピックである。それから57年。神宮の杜に五つの輪が戻ってこようとしている。また、当時はまだストーク・マンデビル大会と呼ばれていたパラリンピック（東京が第2回だった）も同様だ。よく言われる利権などを抜きにすれば、本来五輪は世界中のアスリートが競う素晴らしいスポーツの祭典であり、競技の一つ一つに胸を熱くさせられ、勝者と敗者のドラマが感動を呼ぶものだ。しかし、2021年はそう言えない。本来より1年遅れの今月、この号が出る頃には間違いなく「開催」は決まっているだろう。新型コロナウイルスに世界中が苦しんできた（いる）中で、1年延期にこそなったが、IOCも日本政府も着実に開催への道を邁進してきた。コロナ対策の全てに真逆の状況を作り出す五輪開催は、どんなにドラマを美化しようとも説得力は無い。中止されないなら五輪期間こそ「ステイホーム」していただきたい。